

教育関連学会連絡協議会・公開シンポジウム  
「教育学教育のあり方と教職課程カリキュラムの再検討  
—教育学分野の参照基準の作成に向けて—」

2019.3.16@学習院大学

# 教育学分野の参照基準の全体構想

松下 佳代

京都大学・高等教育研究開発推進センター

matsushita.kayo.7r@kyoto-u.ac.jp

# 日本学術会議における参照基準の作成

- 中教審答申「学士課程教育の構築に向けて」(2008.12.24)
- 文科省から学術会議へ「大学教育の分野別質保証の在り方について」の審議依頼(2008.5.22)
  - 「大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会」の下の3つの分科会で審議
- 学術会議より回答「大学教育の分野別質保証の在り方について」を发出(2010.7.22)
- 各分野で参照基準の作成・公表(2012.8.31～)
  - 「教育学分野の参照基準(試案)」(広田照幸氏による)が、各分野での作業のためのサンプルとして作成・活用されたが、教育学分野の参照基準の作成には至らなかった

# 参照基準の構成要素

(回答「大学教育の分野別質保証の在り方について」、第1回会合広田報告)

---

1. 当該学問分野の**定義**と固有の**特性** \* その後、定義と特性に分割
2. 当該学問分野で学生が身に付けるべき基本的な素養
  - (1) 基本的な**知識と理解**
  - (2) 基本的な**能力**: 分野に固有の能力とジェネリックスキル
    - \* 当該分野の学びを通じて学生に身に付けさせる能力を定義しつつ、そのことが、職業人として、市民として、人間として、どういう意義を持つのか明らかにする。
3. **学習方法**と**学習成果の評価方法**に関する基本的な考え方
  - \* 2で述べたことを学生に身に付けさせるために、学習方法ではどのような工夫が重要であり、またその成果をどのように評価するのかを明らかにする。
4. **市民性**の涵養をめぐる**専門教育と教養教育との関わり**
  - \* 専門教育と教養教育とで構成される学士課程教育の、分野を共通した目標が「よき市民の育成」であり、そのことを実現するという観点にも十分留意する。
5. その他、分野ごとの事情を反映した事項

# 参照基準の性格と課題

## ● 参照基準の性格

- 「各大学は、これ [= 各分野の参照基準] を参照して、それぞれの学部・学科の教育課程の学習目標を十分な具体性を備えた形で同定するとともに、それを効果的に達成するという観点からカリキュラムを編成し、学士課程の教育の質を高めていく」(回答, ii頁)
- 各大学の自律性を尊重 → 過度に具体的な記述に陥らず、具体的なものへの言及は例示や参考にとどめる (広田報告, 2018.3)

## ● 参照基準の課題

- 認証評価や法人評価の単位 (= 部局) と、参照基準の単位 (= 分野) のズレ  
→ あまり使われていない
- 抽象度の高さゆえの難解さ  
→ 自律性の尊重 vs. 了解可能性 のジレンマ

# 教育学分野での分科会の設置

## ● 「教育学分野の参照基準検討分科会」

- 設置期間: 2017年12月22日～2020年9月30日

- 設置目的

「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準」は現在28分野[2017年10月現在、2019年3月現在では31分野]で公表されているが、教育学分野についてはまだ作成作業が始まっていない。

教育学分野の大学・学部には**教育学研究**を目的とするものと**教員養成**を目的とするものがあり、教育学分野の参照基準の作成には独特の困難さがつきまとう。一方で、教員養成についてはすでに文部科学省によって「**教職課程コアカリキュラム**」が作成されるなどの動きもある。

このような現状に鑑みて、本分科会は、教育学分野の参照基準について検討し、参照基準を作成すること(もしくは、少なくとも教育学分野の参照基準についての意見をまとめること)を設置目的とする。

---

## ● 分科会の組織

- 日本学術会議第一部会員：教育学分野3名、社会学分野1名
- //            連携会員：分科会参加希望者14名
- 特任連携会員：会員・連携会員外から推薦2名

\* 委員の専門分野にやや偏り(日本教育史の専門家はゼロ)

# 教育学分野での作成プロセス

## ● 第1回会合 (2018.3.30)

- ①参照基準の主要な構成要素と作成上の留意点、および、参照基準のサンプルとして示された教育学分野の「試案」(広田照幸連携会員)、② Tuningにおける教育分野(教育学／教員養成)の参照基準(深堀聰子委員)、③教職課程コアカリキュラム(高野和子委員)の3報告にもとづき、教育学分野の参照基準の作成の方向性と課題について議論した。

## ● 第2回会合 (2018.6.17)

- 「言語・文学分野の参照基準の作成について」(塩川哲也東京大学名誉教授)、「薬学分野の参照基準の作成について」(赤松昭紀和歌山県立医科大学客員教授)の2報告にもとづき、各分野に固有の特性の整理、モデル・コアカリキュラムと参照基準との関係などについて議論した。

## ● 委員からの意見集約 (~2018.8.14)

- 広田試案を含め、参照基準についての意見を委員から集約した。

## ● 第3回会合 (2018.9.10)

- 各委員からの意見にもとづいて、論点を整理し、大まかな作成方針を立てた。

## ● 幹事会案の提案 (2018.12.26) と第一次案の作成

- 分科会幹事会で「幹事会案」を作成し、委員からの意見を集約・反映して、「第一次案」を作成した。

## ● 関連協シンポで第一次案の公開と意見交換 (2019.3.16)

## ● 今後の予定

- 2019.4～ Appendixの作成、ステークホルダー調査(主にオンライン)
- 2020.5 最終案の学会会議への提出
- 2020.9 「報告」(教育学分野の参照基準)の発出